

猛暑に勝つ！夏に強い草花

石川花の会 土屋 照二

夏の花壇と言えば、サルビア、マリーゴールド、ペチュニア、ニチニチソウが定番
大阪花博で大阪は暑い所と言うことで、暑さに強い草花が意識されて以来、いろいろな草花、暑
さにより耐える品種が改良され、紹介されてきた

◆サルビア

- ・夏から秋の花壇で良く使われる花で、日向で良く育ち良く開花するが、強い日差しで花、葉とも焼けて、黄色みを帯びる
- ・西日の強く当たらない場所のほうが花色、葉色ともきれいになる
- ・肥料を多く必要とするが、常に効いていることが重要で速効性肥料を一時に多量に施すと、肥料焼けするで注意 緩効性肥料を月一度、または液肥（300～500 倍）を週1度与えると良い
- ・ファリナセア種は宿根となりやすい また、ホコリダニの発生が多い
- ・高性の晩性種は街灯下では開花が遅れ、花数が少なくなる

◆マリーゴールド

- ・矮性・小輪のフレンチと高性・大輪のアフリカンがあり、共に丈夫な花だが、アフリカンは栽培がやや難しい
- ・多肥特に窒素過多で花付きが悪くなる 特にフレンチはその傾向が大きいので注意が必要
- ・フレンチの中で比較的花の大きな品種群があり、こちらは多肥でも比較的花着きが良い

◆ペチュニア

- ・以前は「雨に弱い花」の代表格だったが、大阪花博で雨に強いペチュニア「サフィニア」が使われてから、次々と雨に強い品種が出てきて、容易に栽培できるようになった
- ・タネは細かく、好光性という性質があるため、タネから始めるにはやや難しい
- ・市販苗を利用すれば11月まで咲き続ける
- ・茎が先へ先へと伸びるので、伸びすぎた枝は適宜切り戻す→→→ハンギングに利用

◆カリブラコア

- ・約30年前にペチュニア属から分離した属
- ・ペチュニアとの交配種もあり、両者の区別は難しい
- ・小輪だが非常に多花で株いっぱい花を咲かせる 夏の間も良く花を咲かせる
- ・冬越しすることも良くあり、南向き軒下等で保護すれば冬越しがより確実になる

◆ニチニチソウ

- ・以前の品種は9月中旬には花が小さくなり、葉が黄ばんだ
- ・最近の品種は花が大きく、開花は11月まで衰えない
- ・小輪、極小輪品種もある
- ・夏の暑さには極めて強い→→→夏花壇には是非取り入れたい
- ・根もと（地際）の湿り過ぎに弱いので、水のやり過ぎに注意

◆ポーチュラカ

- ・約40年前にハナスベリヒユの名で日本に紹介された 現在はポーチュラカで通用
- ・ポーチュラカはマツバボタン類の属名で、特定の種を示すものではないが・・・

- ・八重咲のものは60年以上前から日本に導入されていたが本種は一重、大輪
- ・多肉の茎と葉を持ち、乾燥と暑さには抜群に強い 夏花壇へ是非利用
- ・挿し木で容易に増やせる (土屋の試み) 3cm程に切った茎を花壇にまく→薄く土を被せ放置
→約1か月後に開花→花いっぱいのマット状の花壇に 繁殖は基本的に挿し木
- ・根もとの湿りに弱く、株もとから腐ることしばしば 水のやり過ぎと水はけに注意
- ・日が当たっていないと花が開かない 曇雨天には花は閉じたままになる
- ・マツバボタンはもともと午前中で花が終わったが、最近は午後まで咲いている品種がある

◆ガザニア

- ・日が当たっていないと花が開かないものとして、ガザニアがある
- ・非常に丈夫な宿根草で、高温と乾燥に強く、植えっ放しで良く増えて広がっていく

◆ヒャクニチソウ (ジニア)

- ・タネから育てるのが比較的容易 是非タネから挑戦を！！
- ・最近プロフージュンやザハラのような非常に花着きと花もちの良い種間雑種の品種シリーズがある
- ・花が傷んだら花の2節下で切り戻す 花持ちが良く傷みの判断に迷う
- ・ホソバヒャクニチソウ (リネアリス) は小輪、多花性 もともと花もちが良く、ドライフラワーに利用できる

◆センニチコウ

- ・この花もタネから育てやすい
- ・名前のように花が非常に長持ちし、ドライフラワーにできる
- ・高性種は切り花にも利用でき、盆用家庭花として利用しやすい

◆ランタナ

- ・繁殖は以前は挿し木だったので、冬は親株を温室で保護する必要があった
- ・近年種子系品種が作り出され、苗づくりが容易になり店頭に出回るようになった また暑さに強く夏から秋の花壇に適す 花いっぱいコンクールでも多くの利用がある
- ・沖縄では野生化していて、棘があるので問題になっている
- ・冬の寒さから少し保護すれば、冬越しすることがある
- ・コバノランタナはランタナより寒さに強い

◆ペンタスとアンゲロニア

- ・この花も近年種子系品種ができ、園芸店に多くでるようになった
- ・花いっぱいコンクールで、県下の多くの場所で取り入れられ、秋遅くまで元気に咲き続けている

◆ヒマワリ

- ・夏の花と言えばヒマワリ、暑さと日ざしに似合う花
- ・一般的な品種はかなり大株で、成育期間も長くなる
- ・草丈30cmあるいはそれ以下で咲く花壇用品種がある
- ・切り花品種はタネをまいてから最短45日ほどで咲くものがある
- ・切り花品種は肥料と水を控えれば、草丈が低くなり、茎が細くなり、花が10cm前後になる
- ・切り花品種でも、多肥や水制限ができない場合は2、3mにもなり、花も大きくなる
- ・一般のヒマワリは、一部品種を除いて1株1花だが、シロタエヒマワリ (大雪山) は小ぶりの花を霜の降るまで枝咲きする
- ・他のヒマワリ属植物には、ヤナギバヒマワリ、キクイモ

○×クイズ（猛暑に勝つ！夏に強い草花：土屋）

1. サルビアは肥料を沢山必要とするので、速効性肥料を用いて1度に与える量を多くする
2. フレンチマリーゴールドは一般的に多肥で花着きが悪くなる
3. ポーチュラカは曇雨天日では花が開かず花を観賞することができない
4. ランタナ、ペンタス、アンゲロニアは近年園芸店で多く扱われ、夏花壇の材料として多く使われている
5. ヒマワリは1株に1花しか咲かない品種ばかりである

○×クイズ答え（猛暑に勝つ！夏に強い草花：土屋）

1. ×

2. ○

3. ○

4. ○

5. ×